

郡家コミュニティ

ひな人形で世代を超えた交流を

郡家コミュニティは若い世代が多いため、出生率が市内で一番高く、子どもが多い地域です。そこでコミュニティでは「子どもとの関わり」を大事にしようと、様々な取り組みを進めています。今回は、ひな人形の展示を通じた世代間の交流を紹介いたします。

捨てられる人形がかわいそう

郡家コミュニティでは、毎年2月～3月に「福祉ママ」の協力でひな人形を展示しており、令和2年で9年目になります。これは、コミュニティに「ひな人形が不要になった」と相談があり、引き



子どもたちがひな人形を見学。令和2年は2月9日(日)～3月21日(出)に展示

取った人形を展示するようにしたのがきっかけです。「不要になっただからと捨てるのは人形がかわいそう」と感じた担当者が引き取ったひな人形は、年々増えていき、今では約7セットの人形があります。近年では、郡家校区外からも展示を見に来る多くの人が訪れます。

小学生・園児らが見学に

ひな人形の展示時期には、地元のごども園・小学校の子どもたちが毎年見学に訪れます。近年、時代の流れでひな人形を飾る家庭が減ってきていることもあり、子どもたちはかわい



コミュニティの人が手作りした人形も展示



大正琴の演奏で地域の人たちと子どもたちが交流

見て喜ぶ、特に女の子は声を上げた見入った様子もいろいろです。

見学後は、コミュニティの人らが演奏する大正琴の演奏に合わせて、子どもたちが歌います。コミュニティからの飲み物のふるまいや、お土産でおもてなしなどもあり、地域の人たちと子どもたちの交流の場になっています。

物の大切さを子どもたちに伝える

近年、物を粗末に扱ったり、すぐに捨てたりと、昔に比べて物を大切にしない人が増えていると言われます。郡家コミュニティでは、捨てられる人形を再利用することで、「人が集まる場」になりました。そこには、「将来、子どもたちが物を大切にすることに育ってほしい」という地域の人たちの思いがあります。子どもたちと交流を重ねながら、大切なことを伝えられるよう、郡家コミュニティの取り組みは続きます。



郡家コミュニティ 会長 山川 政明さん

子どもたちと様々な交流

県下有数の児童数、生徒数の小中学校及び複数のごども園が位置する郡家校区では、他多くのコミュニティと同様に「青色パトロール」「校区安全パトロールボランティア」「長寿会とのふれあい大会」など、様々な形で子どもたちと関わる事業を行っています。毎年11月に開催される「ふれあいまつり」は、各学校・ごども園が出演し大変賑わっています。「ひなまつり行事」は家庭では見る機会が少なくなっている七段飾りのお雛様を複数段展示し、子どもたちと交流を深める場となっています。今年も2月9日からコミュニティセンターで展示しますので、ぜひセンターまで足を運んでお楽しみください。